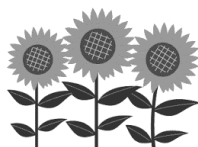


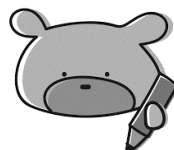
我ら 50 期 ここにあり

もし、もう一度やり直しができるならば・・・



“今年の夏休みはコロナ禍の影響で短かったですね。みなさんはどのように過ごしましたか？宿題や課題はどのように取り組みましたか？本は読みましたか？自分の好きなことや趣味に没頭できましたか？家族と過ごす時間や家庭での役割を大切にできましたか。”と、夏休み終わったと考えて想像してみてください。ああすればよかった、こうすればよかったとなげいても、大切な夏休みはかえってきません。反省して「なぜ失敗したか」ということを掘り下げていくと、どんどん悪い方に引っ張られていくものです。失敗事、困ったこと、悩み事に出会ったときには即座に、「もし、もう一度やり直しができるならばどうする？」と自分に聴いてみてください。明日から夏休みという今日のうちに、「もし、中三の夏休みをもう一度やり直しができるならばどうする？」と考えてから『勝負の夏休み』に突入してください。

夏休みの宿題を早く終わらせる方法



①どれだけの宿題があるか全体像を確認する…木を見て森を見ずという格言もあります。まずは全体的にどのくらいの量かしっかり把握しましょう。②どの順番で宿題を終わらせるかを考える…苦手・難しい・時間がかかるものから終わらせると後が楽になりますし、問題を解く系から取り掛かると習ったことを覚えているのでスムーズに進みます。毎日取り組む必要があるものを最後に残さないことも大切です。③ゆるめの計画を立てる…計画を立てると自分が宿題を終わらせる姿というものが想像できるようになり、勉強がはかどります。夏休みの宿題は、休み期間中もただ怠けないように勉強させるという目的ではなく、自己管理能力を養う大切なものとして扱って欲しいと思います。この2週間の過ごし方での経験が、これからの学習計画と志望校合格の鍵になると考えています。

校則は何のためにあるのか？



校則が何のためにあるかを考えてみましょう。校則は単に生徒の生活を規制するものなのでしょうか。あるいは、学校運営を整然と行うためにつくられた道具でしょうか。たしかに、学校という集団生活の場では、集団の自由のために個人の自由を制限する必要があると思います。つまり、校則は集団生活を円滑にするために必要であるという面を持つということです。社会学者のデュルケームは次のように言っています。「子どもが規則を尊ぶことを学び、またかくせねばならぬがゆえに自制し、わがままを捨てる習慣を身に付けるのは、学校規則の尊重を通じてである。それは義務が持つ厳しさについての最初の体験であって、真摯な生活はまずここから始まる」こうそくは生徒が真面目な生活を送るためにある。これが彼が考える校則の教育的意味です。またそれに関連して、生徒が校則を守ることは、社会に出てから様々な集団の中でルールを守れる大人になる訓練でもあるとも考えられます。校則は、生徒の将来のためにあるのです。中学生時代の外見（服装や髪形など）が、そのまま大人になったときの「良い状態」につながる訳ではないことは、大人自身、自分たちの経験から実はよく知っていることです。校則の中身が何であれ、守るか守らないかが、ルールや基準に対する態度を養うことになるのです。つまり、校則は非行を防ぐためにあるというより、むしろ生徒の「正しい態度（正しい心の持ちよう）」を育てるためにあり、これこそが「よい大人になること」につながるのです。人間の「外見をどうするか」というより、「内面をどうするか」ということに深い関りがあるのです。

2学期始業式 8月25日(火) 予鈴 8:55 本鈴 9:00

- | | | |
|----|----------|-------------|
| 1限 | 始業式 | 9:10～9:25 |
| 2限 | 特活 | 9:40～10:25 |
| 3限 | 学年集会 | 10:35～11:20 |
| 4限 | 授業 A 月 1 | 11:30～12:15 |
| 5限 | 学活 | 12:55～13:05 |

《持ち物》各教科の課題、自学自習、給食セット

健康チェックシート、水筒、ハンカチ・タオル

